

平成25年度茨城県病院事業経営改善検証委員会(第1回)意見概要

日時：平成25年8月22日(木) 18:00～19:40

場所：県庁1106会議室

【メンバー】

城西大学教授（地域医療・行政学）	伊関 友伸
日立製作所日立総合病院長	奥村 稔
東京医科歯科大学大学院教授（医療経済学）	川淵 孝一
茨城県医師会長	小松 満(委員長)
公認会計士	清水 至
茨城県総合健診協会会長（県医療改革担当顧問）	山口 巖

【主な意見】

- 平成24年度の決算が良かったことは評価すべき。永年の職員の尽力でなされたものと思う。
- 決算について一番気になるのは、現金がどれくらいあるか。地方公営企業会計制度が変わっても、病院事業会計としてどれだけ現金を持っていて、安定的に経営しているかということが重要である。
- 茨城県保健医療計画(平成25年度～29年度)の中で「死角のない医療」や「切れ目のない医療」という言葉が出てくるが、県民が聞いても分かりづらい。具体的なイメージを示した方が良いと思う。
- 類似病院との比較について、これまでは、経営改善で費用面が中心であり、地方公営企業年鑑で同規模病院を取り上げてきて比べることが多かったと思う。今後は医療の質の面についても、DPC分析等で考慮して比較をした方が、県立病院がやっている医療が可視化できる。
- ほとんど目標をクリアしているので、経営はずっと良くなっている。しかし、今後さらに良くすることはなかなか大変。今後は、どのような資金が将来に向かって必要なのかを県全体で検討していく必要があると思う。
- 高度医療をすればするほど、医療機器等で減価償却に回す分が増えていく。その時に、それに耐えられる経営をしないといけない。今の経営ならば、なんとか大丈夫だとは思いますが、償却負担は考えている以上に大きなものなので、それを予想して色々な医療を組み立てるといったことが必要かと思う。
- こども病院に整形外科を開設して、専門的な医療に取り組んでほしい。